

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	11 教員・教員組織(研究科)
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 増加する後期課程学生・研究員への対応のため、後期課程指導教員、後期課程セミナーの担当者を増員する。	→後期課程指導教員数。言語コミュニケーション文化セミナーの担当者数。	A	A	A	A	
2. 教員の資質向上を図るため、FDワークショップを毎年実施する。	→FDワークショップの開催数、参加者数。成果公表。	B	C	B	A	
3. 各研究領域の教員数に関する基本方針を明確にし、アンバランスを是正する。	→基本方針の策定。	B	B	B	B	
4. 2007年に開設した日本語教育学プログラムの充実のため、日本語教育担当教員の採用を行う。	→途中退職者の教員補充の円滑な実行。	B	A	B	B	
					☆	
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2名の教員について新たに後期課程教員の任用人事を行い、博士後期課程教員の強化を図った。その結果、2013年度は、博士後期課程指導教員数は22名になった。
目標2	院生会の幹部および院生有志を迎えて、教員と院生とのFDワークショップを2012年12月19日（水）に実施した。授業方法、研究施設、研究会、言語コミュニケーション文化学会フォーラム、研究科への要望等のテーマについて議論を重ねた。今後もさらにこのようなFDワークショップを継続して、コンスタントに開催していきたいと考えている。
目標3	現在、42名の専任教員がおり、言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の各領域に最低、13名以上の教員を配置しており、教員組織はほぼ充実していると言える。
目標4	2007年に開設した日本語教育学プログラムの担当教員数が、他の領域プログラムに比べて、やや少ないのは確かである（13名）。この点については、今後さらに増員をはかる必要がある。
備考	